



## 青森県勢として初出場 手話で伝える共生社会の大切さ

本大会の衣装をまとい意気込む青森山田高等学校チーム

青森山田高等学校(花田博校長)のインターアクトクラブ・青年赤十字部は、北海道・東北ブロック代表として、9月27日に開催された「全国高校生手話パフォーマンス甲子園」の本大会に青森県勢として初出場しました。

コロナの影響による活動制限を受けるなか、大会案内が目にとまり「手話をやってみよう」という声から活動がスタート、ほとんどが手話をはじめたばかりでしたが、脚本制作から演出までを生徒が担当し、チーム一丸となって取り組みました。

本大会では、コロナの偏見に悲しむ転校生に青森が世界に誇るねぶた祭の文化を通じて、仲間達が、勇気を与えるというオリジナルの物語を披露し、障害者などが積極的に参加・貢献していくことができる社会の大切さを発信しました。

父親が聴覚障害者であるチームリーダーの須藤遼さん(3年)は、「最初は本選出場のうれしさよりも不安のほうが多かったのですが、メンバー全員が最後の最後まで諦めずに真剣に演技や手話に取り組んだおかげで最高の作品を創り上げることができました。また、顧問の白取静子教諭、葛原香織教諭は、「脚本を書くことも手話を使うこともパフォーマンスとして表現することもはじめての中、メンバー同士が相手を思いやり、切磋琢磨して、日々成長していく姿が印象的でした。本大会を通して、メンバーの手話が言語として通じるようになり嬉しく思います」とそれぞれ本大会を振り返りました。

## 県内4地区分区に赤十字 救援車「博愛号」を配置

青森県支部では、このほど赤十字救援車「博愛号」を平川市、七戸町、風間浦村、新郷村の1地区、3分区に配置しました。

赤十字救援車「博愛号」は、青森県支部の創立100周年記念事業として昭和55年にスタートし、県内全ての市町村に対して更新を含めて延べ247台の配置を行いました。平成21年度をもって事業を一時休止したものの、自然災害が多発している状況などを鑑み、平成28年度から事業を再開しました。



平川市地区に配置された軽貨物型の博愛号

「博愛号」を配置された1地区、3分区では、それぞれ地区長、分区長をはじめ、赤十字関係者の出席のもとに配置式が行われました。青森県支部工藤順巳副支部長が「災害時の救援物資の輸送や地域における赤十字活動のシンボルとして活用してほしい」と配置にあたり、挨拶を述べ、地区長、分区長にレプリカキーを手渡しました。

再開した博愛号等の配置事業は、10年間(平成28年度、令和7年度)で、県内全ての市町村を対象に行われます。



工藤副支部長からレプリカキーを受けとる櫻井分区長(新郷村)

令和2年度赤十字会員増強・活動資金増収運動実施中!

赤十字を支えるあなたの“ちから” 赤十字会員の加入、活動資金(会費・寄付金)のご協力をお願いいたします。

### 西目屋村社協が防災教室を開催

～青森県支部と村赤十字奉仕団が協力～

8月7日、西目屋村中央公民館を会場に2020年度スキルアップスクール「夏休み防災教室」(社会福祉法人西目屋村社会福祉協議会主催)が同村赤十字奉仕団などの関係団体の協力のもと開催され、村内に住む小学生約40人が参加しました。

炊き出し訓練では、青森県支部職員と同村赤十字奉仕団の団員が講師を務め、参加した小学生は目盛りがついた専用のビニール袋を使用、お米とお水をこぼさないように慎重に袋詰めし、沸騰したお湯に投入しました。ご飯は、30分ほどで炊き上がり、団員らが調理したカレーと一緒にいただきました。



専用のビニール袋で炊き上がったご飯に興味津々

また、ご飯の炊き上がるまでの時間を利用して行われた防災講話では、支部職員が講師を務め、「災害がおきたらぼくのポチはひなんじょにはいれますか」と題し、避難する際の留意点や災害に対する心構えなどを学びました。

参加した小学生からは、「お米を袋に入れるのが難しかったけど、美味しいご飯が炊けたので嬉しい」、「今日学んだことを忘れず、家族と相談して災害に備えたい」などの感想が寄せられました。

### 日頃の献血に感謝

～献血協力者に金色有功章などを伝達～

9月16日、青森市男女共同参画プラザAV多機能ホール(アウガ)において、献血感謝の集いが開催され、関係者約40人が参加しました。

集いは、毎年7月1日から1か月間、全国的に実施される「愛の血液助け合い運動」の行事の一環として、日頃の献血協力への感謝と献血への理解促進を図ることを目的に開催されています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、開催が延期となったほか、参加者の制限やプログラムの縮小などの感染拡大の防止対策がとられました。



近藤事務局長から有功章を伝達される受章者

第1部は、式典が行われ、県健康福祉部の有賀玲子部長から献血協力団体等に対し、厚生労働大臣感謝状の伝達などが行われました。また、献血回数が増えた献血協力者に対し、県支部の近藤宏事務局長が金色有功章などを伝達したほか、献血思想の普及・啓蒙を図るために協力された団体へ、県赤十字血液センターの柴崎至所長から感謝状が贈呈されました。

第2部では、柴崎所長から「献血後の血液の流れ」と題し、講演が行われました。



### 赤十字の役割を再確認 ～高校生メンバーが支部訪問～

9月14日、西北五地区青少年赤十字指導者協議会高校部会の高校生メンバー 18人と指導者6人は、青森県支部を訪れ、職員などから説明を受けました。



段ボールベッドを組み立てる高校生メンバー

同協議会高校部会では、毎年、青少年赤十字の研修の一貫として、日本赤十字社が取り組む事業への理解促進などを図ることを目的に研修を開催しています。

今回の研修では、県赤十字血液センターの柴崎至所長から献血に関する講話のほか、県防災士会青森支部の三浦一郎支部長から避難所体験を交えた防災講話などが行われました。

初めて研修に参加した高校生メンバーからは、「私たちも赤十字の一員として、青少年赤十字活動に取り組んでいることがわかった」「今日学んだことを学校の仲間へ伝えたい」などの感想が寄せられ、今後の部活動の取り組み方について、指導者や先輩メンバーと相談する光景が見られました。

### 災害時に役立てよう ～金木町奉仕団と金木小が合同研修会～

9月28日、五所川原市金木公民館において金木町赤十字奉仕団(外崎い子委員長)と五所川原市立金木小学校(工藤直之校長)の4年生44人による合同研修会が開催されました。



上手にビニール袋にお米とお水を入れる児童

同研修会は、災害時における非常食の炊き出し訓練や防災の考え方などについて学ぶ機会として、平成20年度から毎年開催されています。

本年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、感染防止対策を講じ開催されました。参加した児童は、同市上下水道部の職員からの説明後、給水車による手洗いを体験しました。その後、熱に強いビニール袋を使用した非常食づくりを行い、炊き上がったご飯のあまりの美味しさに驚いていました。

また、昼食後に行われた避難所体験では、段ボールベッドの組み立て体験や災害時に使用される道具に触れながら、真剣に取り組む姿が見られました。

児童からは、「今までは災害時の行動について考えたことはなかったけど、これからきちんと準備したい」「段ボールベッドの組み立て方や良い点などを知ることができた」と感想が寄せられました。

### “知る、見る” 赤十字

NHKウィズコロナ・プロジェクト「みんなでエール」

NHKでは、新型コロナウイルスと向き合う人々、新しい生活の中で頑張る人々に寄り添い、応援・支援するために「みんなでエール」というプロジェクトを行っています。

そして、このプロジェクトに参加する日本赤十字社では、全国の赤十字病院を中心に新型コロナウイルス感染症の治療および感染拡大防止のための活動に取り組んでいます。

詳しくは、日本赤十字社ホームページをご覧ください。http://campaign.jrc.or.jp/minna/



### 赤十字ネットワークニュース

現在受付中の国内自然災害義援金

現在受付中の国内自然災害義援金と受付期間は以下のとおりです。

- 令和2年7月豪雨災害義援金 令和2年12月28日まで
- 令和元年台風第19号災害義援金 令和3年3月31日まで
- 平成30年7月豪雨災害義援金 令和3年6月30日まで
- 東日本大震災義援金 令和3年3月31日まで
- 平成28年熊本地震災害義援金(対象：熊本県) 令和3年3月31日まで
- 平成29年7月5日からの大雨災害義援金 令和3年3月31日まで

## 新型コロナウイルス感染防止に伴う赤十字のアクション

日本赤十字社では、「人のいのちと健康を守る」という使命のもと、全国の赤十字施設を挙げて以下の取り組みを行っています。

#### 新型コロナウイルス問題への対応

救護班の派遣(クルーズ船、施設等)

感染予防啓発活動(動画配信・パンフレット)

患者の受入(感染症指定医療機関等として)

深刻な血液不足への対応

#### 感染防止のための社内の取り組み

リモートワークの導入

消毒等衛生管理の徹底

WEB会議の積極活用

講習会・密接環境でのボランティア活動の延期や中止

医療機関(赤十字病院)及び血液事業(献血)等は、通常どおり運営しています。 ※ただし、施設によっては外来診療等を停止している場合があります。

私たちが直面している新型コロナウイルスへの取り組みをはじめ、台風や地震などの災害に備える赤十字の活動は、皆さまからの会費やご寄付で成り立っています。赤十字の活動資金にご協力ください。

詳しい活動については

検索欄:

### 献血は“16～69歳まで可能です!”

※65～69歳までの方は、60～64歳の間に献血経験のある方に限ります

献血ルーム ■全血献血/9:30～12:30、13:45～17:00  
受付時間 ■成分献血/9:30～11:50、13:45～16:20

- 青森献血ルーム ☎ 0120-649-489 青森市長島1丁目3番1号 日赤ビル4階
- 弘前献血ルーム「CoCoSA(ココサ)」 ☎ 0120-768-489 弘前市駅前町8-1 大町タウンビル2階
- 青森県赤十字血液センターホームページ <https://www.bs.jrc.or.jp/th/aomori/index.html>

